

# 第1回

## 平戸市総合戦略策定委員会 会議録

と き：平成27年5月18日（月）15：00～16：50  
ところ：平戸市役所4階第2委員会室

○日時

平成27年5月18日（月）15：00～16：50

○場所

平戸市役所4階第2委員会室

○出席委員（氏名50音順、敬称略）

赤木、荒木、石川、竹田、田中、田渕、寺田(勝)、寺田(孝)、豊増、西原、古川、松尾、松山

○欠席委員（氏名50音順、敬称略）

富崎、行成

○次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 委員紹介
4. 市長挨拶
5. 会長、副会長互選
6. 会長挨拶
7. 議事
  - ①平戸市の現状についての説明
  - ②総合戦略策定にあたっての考え方
  - ③総合戦略策定体系図
  - ④総合戦略策定スケジュール
  - ⑤その他
8. 閉会

○会議資料

- ①総合戦略策定委員会委員名簿
- ②総合戦略策定にあたっての考え方
- ③総合戦略策定体系図
- ④総合戦略策定スケジュール

○会議参考資料

- ①総合戦略策定委員会設置要綱

- ②ずっと住みたいまち創出条例
- ③地方への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開
- ④まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像
- ⑤まち・ひと・しごと創生総合戦略（抜粋）
- ⑥まち・ひと・しごと創生長期ビジョン
- ⑦H26.12.27 通知 まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
- ⑧総合計画住民アンケート結果（H18、H24）
- ⑨総合計画やらんば指標の進捗状況
- ⑩平成27年度主要施策事業一覧
- ⑪まちひとしごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」【別冊】
- ⑫平戸市総合計画（ダイジェスト版）【別冊】

(15:00 開会)

○市長

本日は平戸市総合戦略策定委員会の第1回の会議という事でご案内しましたところ、皆様方には大変ご多忙の中にご出席いただきましてありがとうございます。また、先ほど代表して赤木さんに委員の委嘱状をお渡ししましたが、それぞれ皆様方には策定委員会委員として、それぞれの立場で活発な議論を賜りますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

さて、今回の策定委員会発足につきましては、国が「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、関連法を整備しながら、人口減で大きな課題となる、この国家的な現状をどの様に改善していくか、ということについて取組み、それを地方版総合前略として各自治体に義務付けられたことがございます。

平戸市は今年で市町村合併10周年を迎えますが、人口減少の流れに歯止めが効かず、県内21市町のうち、減少率は対馬市について2位となっております。こういった経過に至るまでは様々な要因が挙げられますが、それを時代の流れであるとか、価値観の多様化とか、誰かのせいにするのではなく、一つ一つ問題点を洗い出しきちっとした施策体系に肉付けながら、市民の総意を持って問題解決に立ち向かわなければと思ひております。

行政といたしましては、昨年9月の定例議会に、私の方から人口減少抑制強化宣言を行い、そして本年4月1日からは、人口減少抑制のための、「平戸市ずっと住みたいまち創出条例」を可決成立し施行しております。これまでも人口減少に対する、或いは産業育成、雇用について、これに直結する施策は様々な形でやっておりましたが、きちっと条例を定め、明文化する事によって、政策にブレが無い、ムラが無いような形にしながら、全世代にそしてそれぞれの市民に意義を共

有して頂くという事がございます。

加えまして、今回この策定委員会を開催して、総合戦略を具体的に構築してまいりたいと思っております。その意義の重さというものを共有させて頂きながら皆さまのご尽力を切にお願いしたいと思っております。

重ねて申し上げますが、今回の地方版総合戦略を作るにあたっては、国からは「産学官金労言」という枠組みで幅広く意見を聴くように、となっております。「産学官」というのは聞き慣れた言葉で、産業、学術関係と、官、行政関係で、これに「金労言」金融機関、労働団体そして言論、メディア関係者であります。したがって、それぞれの代表的な方がここにお集まりでございます。

既に金融機関、今日は十八銀行、親和銀行地元の支店長さんお出ででございますが、昨年9月以降、条例制定に関わっていただいております。つまり、お金を回すことによって産業をたくましくし、景気回復感を共有しながら、そこに雇用や設備投資を促して、人口減少抑制していこうという流れであります。

さらに労働団体からは寺田さんが見えでございます。建設業界の重鎮でありますけれど、労働的な立場からのご意見をいただきたい。メディアもそれぞれ地元にはいらっしゃる支局長お二人に来て頂いております。従来、メディアはオブザーバーの席にいて取材をする側なんですけど、意見を求めるという事です。具体的にいうと、平戸にはこんないい資源があるとか、何でこんな資源を活用していないんだといった事を言っていただきたい。

要するに、我々はたたき台として行政が出す素案を、皆さんに感想を聞くというつもりは無いんです。感想だけじゃ駄目です。「足りない。我々はこう思っている。」というのを強く言っていただきたい。少なくとも総合戦略を策定した暁には、そこに予算投下とか具体的な施策体系を繋げていきますから、ただ選ばれた立場で自分の組織の代表として「こんだけ言えばいい」じゃなくて、それぞれが市長になったつもりで、色々叱咤激励を含め、こういう街づくりにしたいという思い、理念をぶつけて頂きたいと思っております。「子育てするには家庭における夫の役割が重要なんだ。もうすこし育児休業を男性職員にもやるべきだ。」など、そういうこともどんどん言っていただきたいと思っております。

いずれにしても、それぞれの立場は、産学官金労言というカテゴリーではありますけれど、そういうものも含めて、1市民として、そして平戸に何らかの関わりを持っている方々ということで、思う存分発言をし、戦略に力をお貸しいただきたいと思っております。

また、石川委員に於かれましては、地元大学に教授としていらっしゃって、協定を結ばしていただいておりますし、あらゆる面でご尽力いただいておりますが、なお一層ご協力をいただきたいと思っております。

それぞれこの策定委員会皆さま方によりまして、この戦略を作ることが、今後向こう10年、20年の平戸の進むべき道を描く事になります。大変重い責任と任務が

ある訳でございますが、どうぞ忌憚りの無いご意見を寄せて頂きますようお願いしたいと思っております。

なお、総合戦略策定にあたっては、地域創生アドバイザーとして、前武雄市長であった樋渡啓祐さんをアドバイザーとして、ご意見や、ご自身の豊富な経験やアイデアをお寄せいただく事になっております。一度、座談会をしてはとも思っておりますし、そういった形で平戸の埋もれた可能性とか、魅力とか地域資源とかをあぶり出して、これからの次世代へ受け継ぐべきそういう街づくりにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

結びになりますが、委員各位の益々のご健勝と、委員会に対しますご尽力を重ねてお願ひ申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。

●司会

当委員会には、会務を総理する会長及び会長を補佐する副会長を置くことになっております。

暫時市長に座長を務めていただきまして、会長及び副会長の選出をお願ひしたいと思っております。それでは市長、よろしくお願ひします。

○市長

会長の選任をしたいと思っておりますが、いかがいたしましょうか。

□委員

会長様につきましては、長崎県立大学経済学部学部長の石川様にお願ひしてはどうかと思っております。

○市長

只今、〇〇委員から提案がありましたが、いかがいたしましょうか。

(「異議なし」の声)

○市長

ありがとうございます。それでは石川委員よろしくお願ひいたします。

○市長

副会長はどういたしましょうか。

(「事務局の案」の声)

◎事務局

事務局案といたしまして、行政機関で副市長が参画させていただいておりますので、副市長をお願いさせていただければと考えております。

○市長

只今の提案について、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○市長

異議がないということで、副市長をお願いさせていただきます。

■会長

長崎県立大学経済学部長をしております石川と申します。経済学部は本年度で廃学という事になります。

皆さまご存知かと思いますが、佐世保校は経済学部を発展して新たに2つの学部をつくるということで、1つは地域創造学部、もう1つは経営学部なんですが、まさに国の方から地方創生ということが言われる訳ですが、私は今後地域創造学部にも所属する事が決まってるんですが、これからも大学と各自治体との連携ということで、学生もいろいろと協力できる事があればさせていただきたいと思っております。

平戸市の方では、愛のり交通活性化協議会というのがありまして、そちらの方で長く会長をしております。同じような問題で、地域人口の減少で地域の交通が補助金なくては運営できなくなるというような大きな課題を扱う委員会ですけれど、そちらのほうでも会長をさせていただいております。

通常は事前に進行とか事務局の方と打ち合わせてやっているんですけど、今回は全く何も無いところからスタートですけど、特に今日は大きなことを決めたりするような審議はまだ出来ないかと思うんですが、これから会長を務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

◎事務局

市長は所用のためここで退席させていただきますので、ご了解いただきたいと思います。

◎事務局

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

本日の資料、手元にあるかと思っておりますけど、まず事務局から、議事の①から④までを一括して説明をさせて頂いて、それぞれの説明の後にそれに関して質問が

あればしていただくということで、させていただきたいと思います。

それでは、まず説明に先立ちまして、本日は配布資料が多くございますので、その確認をさせていただきます。

はじめに「第1回平戸市総合戦略策定委員会 次第が付いている資料」、「第1回平戸市総合戦略 資料」、次第と紙ファイルに綴じている資料1から10インデックスがついている分ですが、各1部でございます。ございますでしょうか。それと、別冊になりますけれども、青色のパンフレット「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」と「平戸市総合計画ダイジェスト版」1部ずつでございますでしょうか。

それと、あと1部追加してホッチキスのA4縦留めの平戸市の現状についての5枚組です。これは、後ほど壁の方にスクリーンで映すものと同じでございます。

はじめに、①の平戸市の現状についての説明をさせていただきます。

#### 【①平戸市の現状について】の説明

#### ◎事務局

次に②から④まで一括して説明をいたします。

#### 【②総合戦略策定にあたっての考え方】の説明

#### 【③総合戦略策定体系図】の説明

#### 【④総合戦略策定スケジュール】の説明

#### ■会長

事務局の方から本日の議事内容について説明をしていただきました。①のところは平戸市の人口とか財政とかの現状そして各種施策についての説明がありました。また②番目以降はこの委員会の目的でもあるんですけど、総合戦略の策定を考えており、そして戦略策定の体系図、そして今後のスケジュールということで、本年度中ということで、忙しいスケジュールかとは思ってんですけど、この点につきまして、委員の皆さまからご質問がありましたらお願いします。

#### □委員

アンケートは市民を対象としたアンケートですか。

#### ◎事務局

市民を対象としたアンケートを考えています。

□委員

全市民対象ですか、抽出してですか。

◎事務局

1,000件から2,000件で年齢層に配慮した無作為抽出によるアンケートを考えています。

■会長

地方では人口が大きく減少する年齢層は18歳の高校卒業くらいなので、アンケートするときも高校生に将来の自分のビジョンを聞いて大量のデータを集めてもよいかと思えます。その後10年位したら転入超過が出てくるところがあるので、もしかしたらUターンかもしれませぬ。通常、高校卒業で就職の場合は、あまり長距離動くことはないので、実際仕事がないから遠くに行ったけれども、また戻ってくる確立も高いのではないかと思っていますので、その人たち向けの雇用も大事だと思ったりしました。都会の大学に行った人は戻ってくる人は少ないかもしれませぬが。また、戻ってきた人にも聞いてみたりしてもいいのではないかと思えます。定年退職した後にUターンやIターンで戻ってくる人も期待できるのではないかと思ったので、その部分はどのようなアンケートをするのか、同窓会組織などでやるか、一回都市部に出て行った人が●●●なときもよいかと思いました。アンケートは早い段階で行われると思いますが、もしかしたらもう一回私たちの意見が言えるかもしれませぬ。

□委員

この委員会で審議していくことになりましたが、審議する議題はどのような形でてくるのですか。事務局からですか。

◎事務局

事務局で作成した骨子をお示しして、委員の皆さまのアイデアをいただき、再度専門部会におろしていく方法もふくめ、もみ直しや修正をしていくなかで完成させていきたいと考えています。

□委員

事務局と我々現場の現状の認識は相当のズレがあると思っています。先日、課長とこの委員承諾の話の時にも話しましたが、1団体の長としてではなく、業界団体の長として出てきています。業界団体を構成する団体それぞれが人口減少については違った問題を抱えているので、業界団体みんなの意見を聞いたうえで、提案を

したいと考えていますので、その辺の認識をお願いしたいと思います。

## ■会長

この委員会は総合戦略策定委員会ということなので、ここで決議した総合戦略を議会にあげることになりますので、各委員の発言の責任は重いと思っていますので、関係部署から意見を伺って今後提案して頂ければと思います。

## ◎事務局

班長クラスで組織する専門部会にも民間から3～4名入ってもらうよう予定していきまして、今は若手から中堅の方に声を掛けさせてもらっている段階です。市職員だけで話をするだけでなく、民間の方にも複数参加していただいて協議したものを、その上の担当者会、そして創生本部を経て、皆さまにお示ししたいと考えています。

## □委員

先ほどの説明では人口も1/3になるということでしたが、実態はそんなものではないと思っています。平戸で1次産業がなくなれば、継続した行政も成り立たないと思っていますので、1次産業が安定した経営となっていかなければならないと思っています。また、職場作りですが、我々が職場を作って募集しても集まってこないのが実態でもあります。市民の意識も変えていただかなければ将来はないと思っています。今は年金があるので、自分一代は平戸市に住むけど後は知らない、というような考えが浸透しています。郷土愛を育むような教育などで、二代三代にわたって平戸を守っていくようにしなければなりません。昔は職場があれば、子どもを呼んで就職させていたのですが、今は募集してもきません。このようなことも含めて提案させていただきたいと思っています。

## □委員

金融機関においても、金融庁から各自治体との連携を強化して、積極的な取り組みをするように示達があります。平戸市は昨年度から様々な施策を実施してきているので、進んできていると個人的に実感しています。策定委員会は6回でスケジュールもタイトになるので、私たちの意見が反映できるのか心配しています。できるだけ早めにやっていただければと思います。

## □委員

専門部会はいくつ設置予定ですか。

## ◎事務局

産業、雇用、子育て、定住の4部会を設置しています。そこに民間の方に入ってもらいます。

□副会長

他の委員がおっしゃるように、早め早めの対応が必要とのこと。最終的にはこの委員会で決定する。一方で各部会にも民間の方に3、4人入ってもらって検討するということですので、共通の分野で、部会に入っている民間の部会委員と策定委員の意見交換を行っていただければスムーズに部会の意見と策定委員会での意見がかみ合うのではないかと思いますので、各分野でそれぞれにしていいただければと思います。

□委員

民間の部会員は今から要請するのですか。

◎事務局

決まった方もいますし、今からの方もいます。

□委員

まずは早めに素案を示してもらわないと、意見も申し上げられないので、専門部会を開催していただいて素案を示してもらいたい。スケジュール的にはいつですか。

◎事務局

6月の意見聴取を経てからの8月の進捗状況説明となりますので、その間で1回行います。委員のみなさまから意見をいただきたいので、資料も早めにお渡ししたいと考えています。

■会長

他の自治体も同じようなスケジュールで進めているとは思いますが、年度内ということでは忙しいですが、いろんなところに情報がうまく伝わるようになればいいかなと思います。

□委員

Iターンで平戸に移住してきた人にもアンケートをしたらいいかなと思いました。

□委員

6月の委員会では意見聴取となっていますが、事前の何らかの調査をしたものがあって、それに対して意見というようなことになるのですか。

◎事務局

今、委員のみなさん考えておられる意見もあるかもしれません。昨年度から市職員のみではありますが専門部会が開催され、ある程度の事業も出てきていますが、今年度は若手中堅の民間の方に入っていただけてきた計画をお示しして、委員みなさんの意見をミックスしていきたいと考えています。

□委員

では、6月の委員会では各委員が盛込んでほしい意見を述べるということですか。

◎事務局

そうです。行政が気づかない面など、忌憚のない意見をお願いしたいと思います。コンサルタントも決まれば途中から策定委員会にも入ってもらいます。コンサルタントには平戸の類似自治体も含め、他市町村の状況についても情報収集をお願いしたいと考えています。また、全国的にみればすでに総合戦略を策定しているところもありますので、資料として専門部会にもお示ししています。

■会長

たたき台がないと議論も難しく、委員としての意見も加えられないことであれば、この委員会の意味がなくなってくるので、今日の議事についても議論できていない部分はありますが、何とか調整をしながらやっていただきたいと思います。

□委員

これまでの暗い話の中で、ふるさと納税が日本一になったことに喜び、画期的なことだと思っています。また、一過性のものかと思っていましたが、今年もすでに3億円の寄付があっているということで非常に素晴らしいことだと思っています。どのようなことで評価を受けたのか、また、今後も推進できるような体制なのでしょうか。

◎事務局

昨年度急激に伸び、当初1億円の予算が最終的には15億円、結果14億6200万円の実績となりました。今年度はふるさと納税の専属の班を作って推進しています。今年4月から寄付の控除金額が住民税の1割から2割になったこと、全国放送に平戸が紹介されたこともあって、人員も増やしています。また、現在3億の

平戸ですが全国1位ではありません。平戸が昨年度多く集められたのは、クレジット決済、ポイント制でカタログから商品が選べる、ポイントが永久に消えないことが要因です。金額では日本一になりましたが、件数では宮崎県綾町が1位です。平戸はあとでポイントを使えることから、1件当たり4万円以上との高額寄付となっており、100万円を超える寄付もあると分析をしています。ただし、永久ポイントは何回も注文ができることから、手間はかかりますが、商品ポイントには送料などの経費も入っているので、注文があればあるほど事業者にとっても喜ばしいことです。ただ、爆発的に注文があったときに、安定して商品供給ができるのか危惧しているところもあります。そのための施策も考えていかなければならないと考えています。

◎事務局

議会からポイントの期限を決めたらどうかとの指摘もありましたが、決めないことによって高額寄付もあります。7億のポイントを付与しているが、半分は繰り越されています。供給体制が追いつかない分野もありますが、その時間で生産体制を増やしたり、別販路を開拓するなどの産業の振興にもつなげていきたいと思っています。

□委員

カタログに載せる商品の選考はどのようにしていますか。大島からも商品は出ていますか。

◎事務局

大島からは鯛茶漬が出ています。商品の発送等は平戸市物産振興協議会、平戸観光協会、平戸瀬戸市場、ひらど新鮮市場の4団体を取りまとめている行っています。

□委員

4団体が20%の手数料をとっているの、このように高い手数料を取らないように市が指導をしていただきたいと思います。

□委員

樋渡アドバイザーとの座談会のスケジュールどのようになっていますか。

◎事務局

まだ、具体的には決まっていません。今から詰めていきたいと思っています。

□委員

決まっていることは、樋渡アドバイザーが総合戦略策定に向けて助言するということですか。

◎事務局

そうです。

□副会長

会議の開催時間等はどうですか。

◎事務局

会長の都合の良い月曜日をベースに、フェリーの関係もあるので次回は13時30分からとさせていただきます。事前に資料も送付しますので、欠席の場合は、意見等をお願いしたいと思います。

◎事務局

どうもご苦勞様でございました。

今日もたくさんの資料をお渡ししておりますけども、後日目を通して頂いたりする中で、もし何かありましたら次回でも質問されても結構ですので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、今後ともお世話になりますけれども、よろしくお願い申し上げます、閉会とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(閉会 16 : 50)